

運営体制について

永宮正治

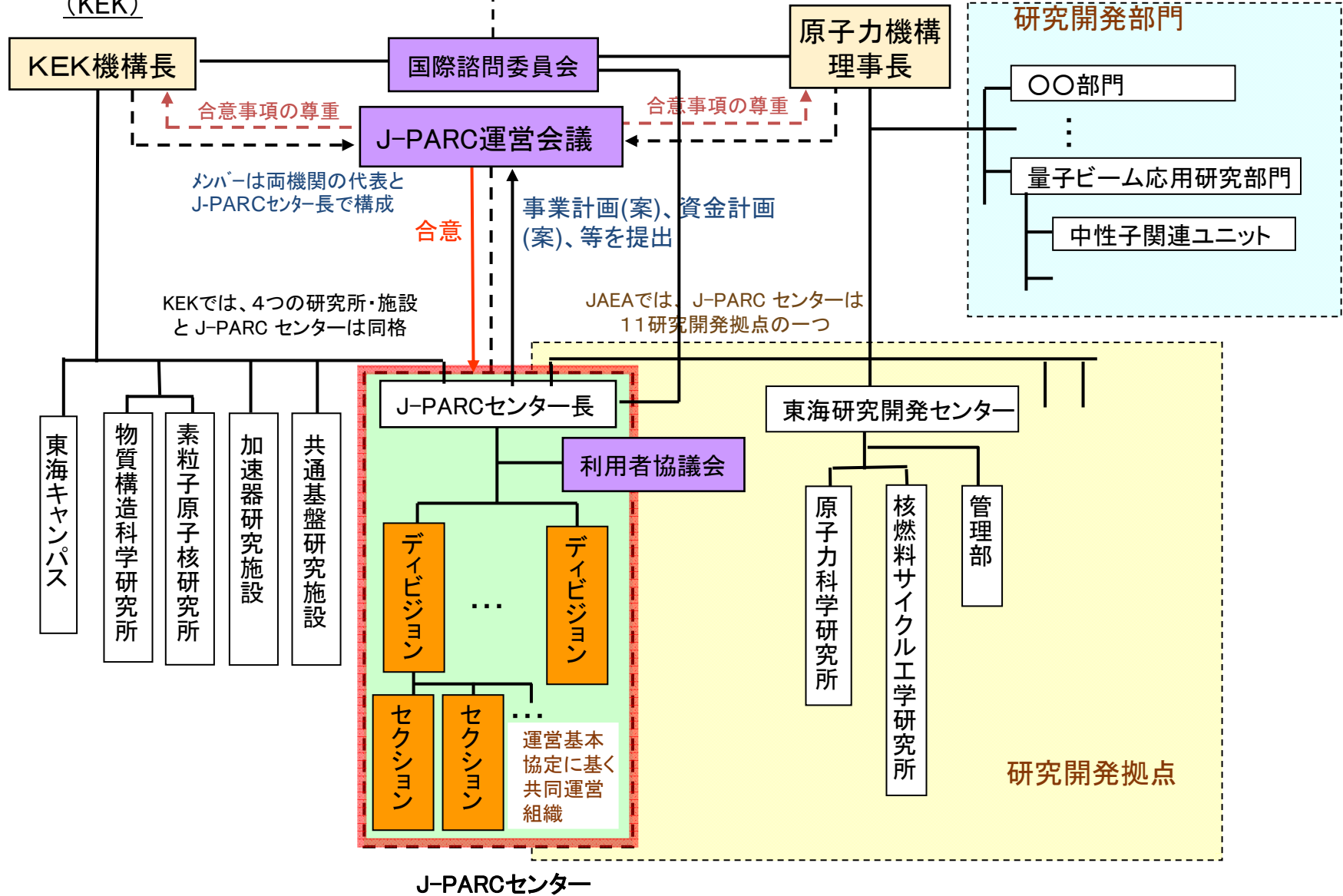
J-PARC センター

日本原子力研究開発機構
高エネルギー加速器研究機構

運営組織

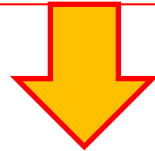
高エネルギー
加速器研究機構
(KEK)

日本原子力
研究開発機構
(原子力機構)



各種委員会の活用

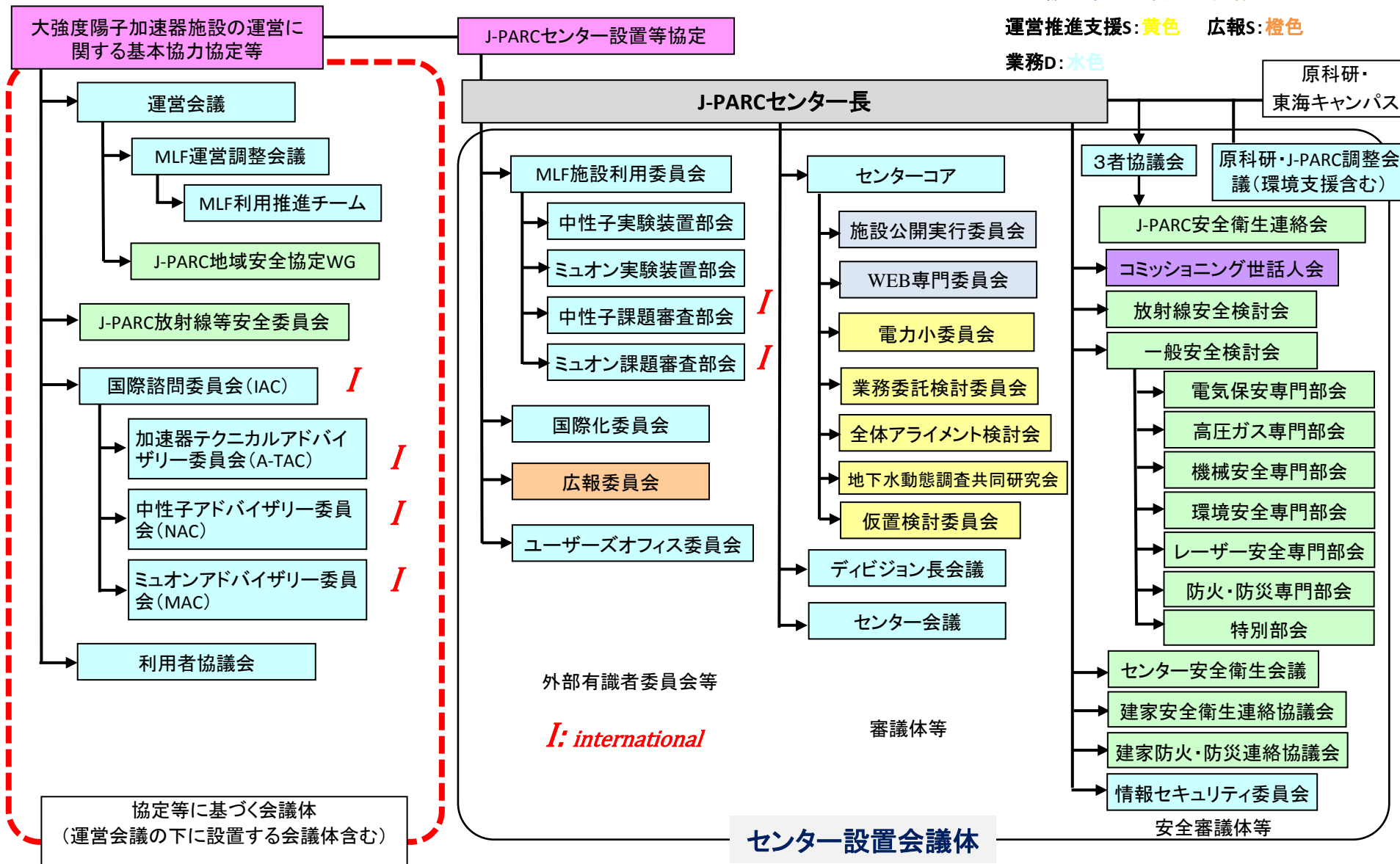
J-PARC の運営に当たっては、国際諮問委員会や利用者協議会などの仕組みを有効に活用することにより、ユーザーの意見を汲み上げるような運営を目指すことが必要



- 各種委員会を定期的に行き開催し意見を運営に反映。
- 国際諮問委員会の他、加速器、中性子、ミュオン、素粒子・原子核のプログラム諮問委員会、等の国際的委員会で、研究計画等の議論を実施。
- 利用者協議会は、コミュニティの代表者を集め、予算等の重要事項の議論を行なっている。

委員会等、会議体の運営体制

事務局
 加速器D: 紫色 安全D: 黄緑色
 運営推進支援S: 黄色 広報S: 橙色
 業務D: 水色



国際諮問委員会

- ・ 国際アドバイザー委員会 (委員長: Jean-Michel A Poutissou, カナダ TRIUMF)
Jean-Michel A Poutissou (TRIUMF), John William White (Australian National University), Andrew Dawson Taylor (ISIS, Rutherford Appleton Laboratory, STFC), Bernard Frois (CEA), Hidetoshi Fukuyama (Tokyo University of Science), Ian Anderson (NScD/ORNL), Sergio Bertolucci (CERN), Young-Kee Kim (FNAL), Hugh Montgomery (Thomas Jefferson National Accelerator Laboratory), Thomas Roser (Brookhaven National Laboratory), Hoerst Stoecker (GSI Helmholtzzentrum fuer Schwerionenforschung), Eiko Torikai (University of Yamanashi), Tsumoru Shintake (OIST, Okinawa)
- ・ 加速器技術諮問委員会 (委員長: Thomas Roser, 米国 BNL)
- ・ 中性子アドバイザー委員会 (委員長: Uschi Steigenberger, 英国 ISIS)
- ・ ミュオンアドバイザー委員会 (委員長: Elvezio Morenzoni, スイス PSI)

※開催頻度は概ね年1回

プログラム諮問委員会

- ・ 素粒子・原子核PAC (徳宿克夫 KEK教授)
- ・ 物質科学・生命科学PAC (金谷利治 京大教授)
 - ・ 中性子課題: 柴山東大教授、
 - ・ ミュオン課題: 小池東北大教授

※開催頻度は概ね年2回

利用者協議会

- ・ J-PARC利用者協議会 (会長: 山中卓 阪大教授)
 - ・ 関連コミュニティ委員会、中性子産業利用推進協議会、等の代表者
 - ・ J-PARC/MLF利用者懇談会 (会長: 福永俊晴 京大教授)
 - ・ J-PARC/ハドロン利用者懇談会 (会長: 仲澤和馬 岐阜大教授)

※開催頻度は概ね年4回

関係学会等 (ユーザーの意見を反映させる仕組みとして機能している団体)

- ・中性子産業利用推進協議会
- ・高エネルギー委員会、核物理委員会、中性子科学会、中間子科学会(ミュオン)

高エネルギー委員会 (委員長: 駒宮)
核物理委員会 (委員長: 田村)
中性子科学会 (委員長: 金谷)
中間子科学会(ミュオン) (委員長: 鳥養)

中性子産業利用推進協議会
(世話人: 林)

MLF利用者懇談会

核変換コミュニティ

CROSS

ハドロン利用者懇談会

利用者協議会

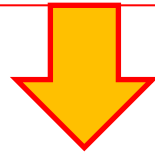
数ヶ月に1回開催

委員は、各コミュニティで選出

予算、運転計画、等々を議論
最近ではセンター長人事の議論も

センターの役割分担

J-PARC センターの円滑な運営のためには、センター長のリーダーシップはもとより、各副センター長の明確な役割分担やディビジョン長への必要な権限と責任の付与が必要



- センター内での明確な役割分担は存在する。
- 権限と責任の付与に関しては、両機関との関連から見て、まだまだ解決されなければならない点が残る。しかし、一步一步解決されている。

副センター長の役割分担

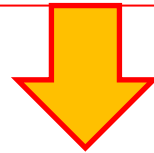
- ・ JAEA副センター長の所掌: **センター長の補佐、JAEAとの調整、**
事業・予算計画、物質・生命D、核変換S、安全D、広報S、業務D
- ・ KEK副センター長の所掌: **センター長の補佐、KEKとの調整、**
国際対応、加速器D、素粒子・原子核D、情報S、低温S、

ディビジョン長への必要な権限と責任の付与 (組織規定で明確化)

- ・ 権限: **ディビジョン内の予算、人事の提案 (実際に決定するのは両機関)**
- ・ 責任: 各ディビジョンのミッション達成
 - 加速器ディビジョン: 安定運転、1MW達成、...
 - 物質・生命科学ディビジョン: BL建設、運転・性能維持向上、利用促進、...
 - 素粒子・原子核ディビジョン: BL建設、施設整備、運転・性能維持向上、...
 - 安全ディビジョン: 放射線、一般安全管理、許認可手続き、...
 - 運営推進支援セクション: 運営及び実施計画、運転計画等の調整、...
 - 情報セクション: 情報システムの運用・管理、セキュリティー、...
 - 広報セクション: 広報の推進、...
 - 核変換セクション: 施設計画、...
 - 低温セクション: 運転計画、管理...
 - 業務ディビジョン: 業務総括、総務、利用業務、ユーザーズオフィス、...

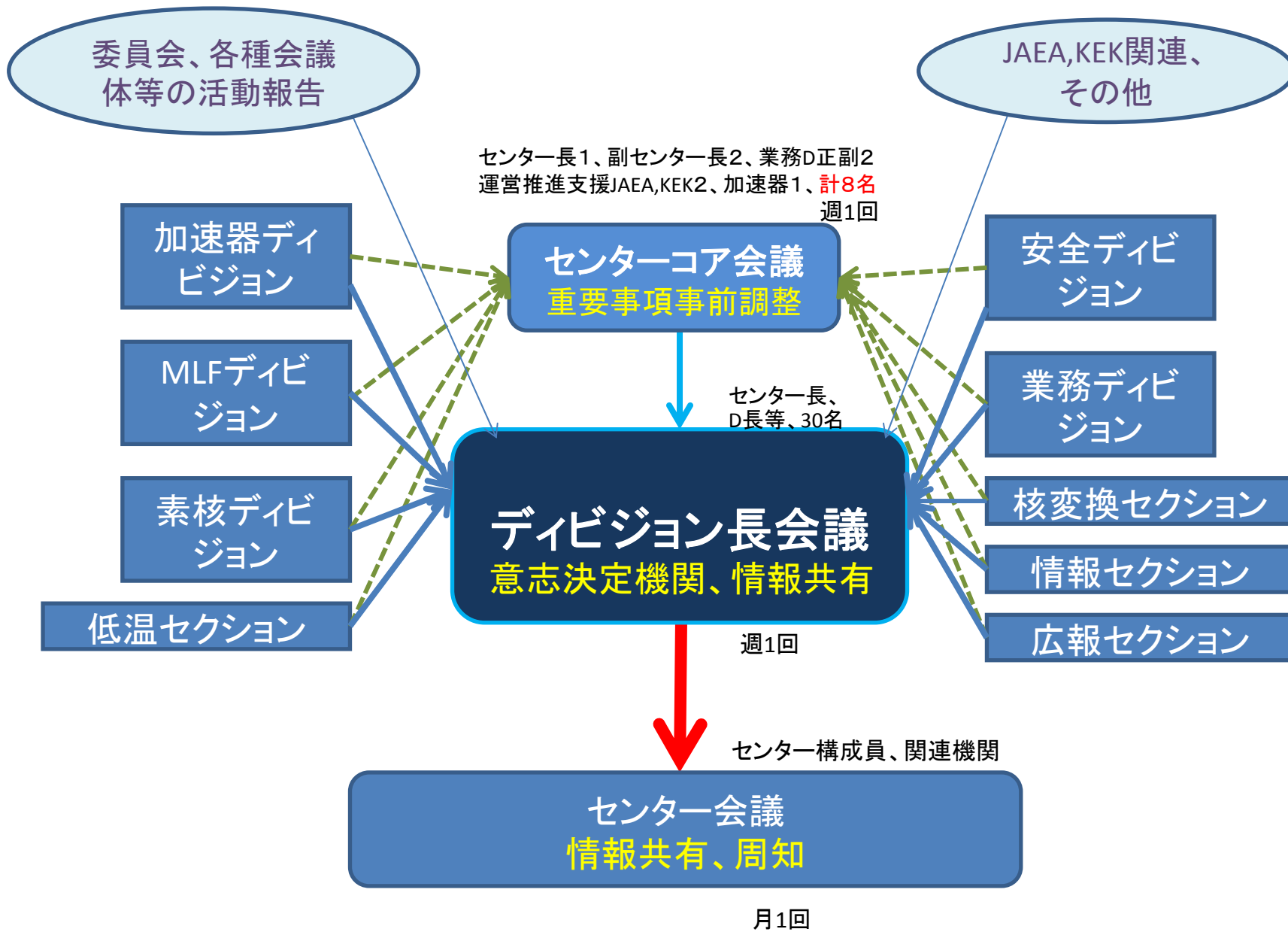
緊密な連絡

センター内各組織が緊密に連絡を取り情報を共有できるように運営体制を構築していくことが必要



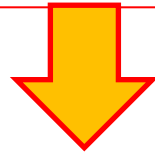
- ・ 毎週 1 回 ディビジョン長会議を開催。
- ・ また、毎週 1 回、コアメンバーによるセンターコア会議を開催し、ディビジョン長会議の前の詳しい打ち合わせを実施。
- ・ さらに、センター構成員を対象にセンター会議を毎月一回開催。
- ・ 各ディビジョン内打ち合わせも定期的にも実施。

センター運営に関わる定例会議の関係



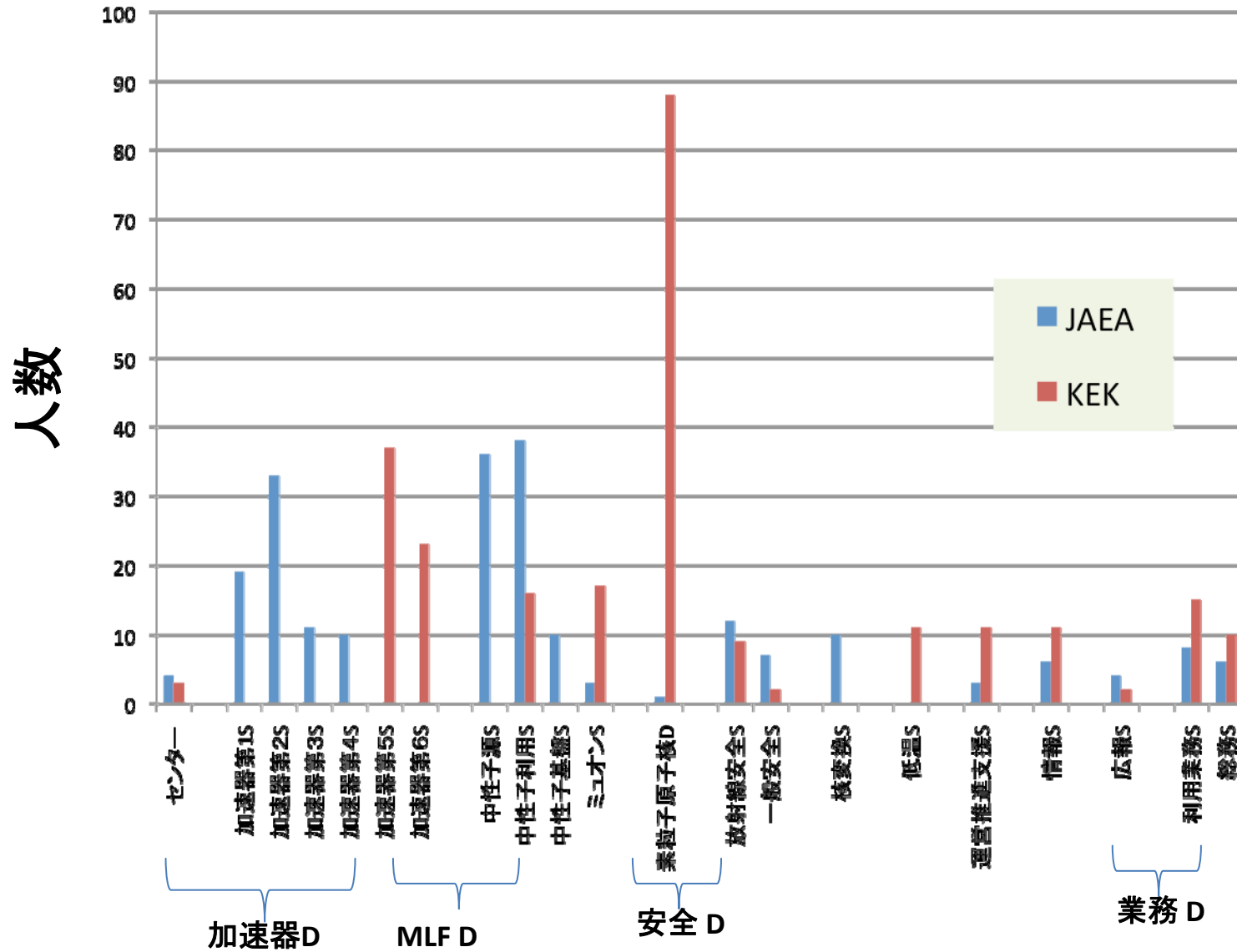
明確な指揮命令系統

J-PARC を円滑に運営するためには、両機関の技術・ノウハウが不可欠であり、本計画が両機関の共同プロジェクトとして進められていることを踏まえれば、当面は、両機関の協力の下、J-PARC センターにおける明確な指揮命令系統の下、両機関の人員が融合し一体となってセンターを運営していくことが必要



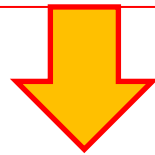
- 震災復旧の折は、指揮命令系統が見事に発揮された。
- 両機関の人員の融合、一体となった運営は、センター内では進んでいる。
- 両機関の協力や理解に関しては、今後改善すべき点は残るが、進んでいる。

ディビジョン、セクション毎のJAEA、KEK人員の状況



レビューの必要性

センターの位置づけを含む J-PARC の運用・利用体制については、今後の J-PARC を取り巻く情勢、研究や技術の進展、利用ニーズの動向、運用開始後における知見や経験等を踏まえ、適切な時期にレビューを行うことが必要



- ・ レビューに関しては、これからの宿題。
- ・ ようやく運用・利用を再開したので、今後の知見や経験等を踏まえ、ある時期にレビューの実施も検討している。

- ・J-PARC運営全体に対して、ほぼ5年ごとに中間評価(本評価が該当)
- ・国際諮問委員会等をレビューの一つとして位置づける。
JAEA 部門(拠点)の外部評価に替わるものとして認められている。
- ・MLFでは、NAC及びMACが諮問と同時に国際評価を兼ねる。
施設の運用におけるレビューが中心。
利用(課題審査)については、MLF施設利用委員会で外部からの意見を得ている。